

2023 年度 事業報告

(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

公益財団法人不二たん白質研究振興財団

1. 事業の概況

当財団は、1979 年（昭和 54 年）の「大豆たん白質栄養研究会」発足以降、1997 年（平成 9 年）の財団法人化、さらに 2012 年（平成 24 年）の公益財団法人化を経て、2023 年度（第 27 期）には発足 44 年を迎えました。

本年度は研究助成事業として国内での助成事業に加え、海外での研究助成を開始いたしました。例年 5 月末に実施しております研究報告会は、東京・浜松町コンベンションホールにおいて、会場での口頭での報告を中心に一部リモートでの発表を併用した上で通常での開催をいたしました。2021 年度（第 25 期）に採択された助成対象者による研究成果を掲載する研究報告会誌については 6 月に刊行いたしました。本財団の研究助成事業を広く一般の人々に周知いただくための広報活動では、大阪市にて公開講演会を開催いたしました。

ポストコロナへの移行に伴い社会環境が変化する中、財団ホームページや財団 EU 支部ホームページとの連携、各種 Web サイトの活用等を進めました。これら活動を通し研究助成事業の継続と、財団事業をより広範に知って頂く活動を継続します。

2. 事業報告

1) たん白質に関する研究およびこれに関連する研究を行なう者に対する研究助成事業

(1) 2023 年度研究報告会の開催

2022 年度（第 26 期）助成課題として採択された被助成者のよる 1 年間の研究成果の報告会は、2023 年 5 月 29 日、30 日に「浜松町コンベンションホール」（東京都）での実地開催と海外在住者を含む一部リモート会議を併用した形で開催いたしました。

特定研究課題 2 題と一般研究課題 25 題、若手研究者課題 9 題の計 36 件の報告がなされました。選考委員の先生方には座長をお願いしたうえで、各発表について評価いただきました。

(2) 2022 年度研究報告記録誌の刊行ならびに 2023 年度研究報告記録誌の編集

2021 年度（第 25 期）に採択され、2022 年度の研究報告会にて、その助成成果が報告された内容を掲載した研究報告会記録誌「大豆たん白質研究」第 25 巻を 2023 年 6 月に刊行し、関係者、希望者に無料で配布いたしました。本誌は ISSN1344-4050、CODEN DTKEFV として公開され、国会図書館等で閲覧することができます。また、科学技術文献データベース（JICST）での検索が可能です。

また、2022 年度（第 26 期）に採択された助成対象者による研究成果を掲載する研

究報告会記録「大豆たん白質研究」第26巻の編集作業を進めており、本年6月刊行を予定しています。

(3) 2023年度研究助成金の支払い

前年度において採択された2023年度（第27期）の一般研究への助成として、20件の課題に対して追加助成3課題（総額3,000千円）を含む総額23,000千円を支払い、また若手研究者枠の助成では5件の課題に対して総額5,000千円を支払いました。特定研究への助成では、2022年度新規採択1課題、継続1課題の計2課題について総額10,000千円を支払いました。海外研究助成では1件の課題に際し5,000千円を支払いました。以上、研究助成金の総額は43,000千円となりました。

これらの研究成果は、本年5月27日、28日に開催を予定している研究報告会において、助成対象者より報告されます。

(4) 2024年度研究課題の選考

2023年9月～11月の間に日本およびEU支部の財団ホームページに募集要項を告知し、学会誌ならびに学会ホームページ等（日本）やLinkedIn（EU支部）に募集要項を掲載して、2024年度（第28期）の研究助成の課題を募集しました。昨年度、一般研究ならびに若手研究者枠の応募数が低調であったことから、通常の告知に加え過去応募者への積極的なPRを実施しました。その結果、国内研究助成の応募者数は大幅に増加しました（応募件数：特定研究2件、一般研究58件、若手研究枠14件）。

応募課題については、2024年1月29日に不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンター6階会議室を拠点とするリモート（Zoom利用）にて開催した選考委員会において、選考委員長である徳島大学二川健教授を中心に厳正に審議が行われました。特定研究については、過去採択課題基準に照らして採択されるに値すると判断して、1件が採択されました。継続課題2件については、研究が順調推移していることから、引き続き採択とされました。一般研究課題ならびに若手研究者枠については、選考委員による評価点ならびに議論の結果、一般研究課題として19件、若手研究者枠として6件が採択されました。この選考結果は理事会にて承認の後、速やかに各研究者に通知されました。海外研究助成では、海外選考委員と国内選考委員より選抜された2名の委員による予備選考が行われ、その結果を踏まえて、日本の選考委員会にて全応募課題3件について審議することとなり、2024年1月29日の選考委員会にて審議の結果、1課題を採択することとなりました（5,000千円、単年）。

以上、助成総額は45,000千円となっております（採択課題は別表を参照）。

2) たん白質に関する研究およびそれに関連する研究に関する広報活動

(1) 2021年度研究成果の広報

研究報告会記録「大豆たん白質研究」第25巻に掲載された報告内容は、インターネット上で検索システムを付けて公開し、随時閲覧が可能といたしました。

(2) 公開講演会

栄養士・一般の方を対象に「大豆のはたらき in 大阪一人と地球を健康に一」と題して、京都大学・特任教授の裏出 令子先生に実行委員長をお願いし、2023 年 10 月 28 日（土）にホテル日航大阪（大阪市）を会場として、3 名の先生方を講師としてお招きし、それぞれのご専門の立場から一般の方にもわかりやすい内容で、最新の知見も含めご講演をいただきました。講演の概要は次のとおりです。

1. 考古学と歴史学の観点から見た大豆の過去、そして現代

演者) 奈良県立橿原考古学研究所 特別指導研究員・京都大学名誉教授

稲村 達也 先生

座長) 京都大学 特任教授

裏出 令子 先生

内容) 大豆は、食品としての栄養学的重要性に加え、マメ科作物に特有な根粒菌との共生による窒素固定能などの特性を有している。このような特性を利用するために、人々はツルマメを改良して大豆を作り出した。このアジアにおける大豆の栽培化、そして大豆の食の過去と現代について解説し、日本における大豆生産の今後を検証した。一章として大豆の祖先とされる「ツルマメ」について、第二章としてツルマメがアジアでどのように栽培され、利用されてきたのか、三章として日本における大豆の栽培とそれに関わる食の歴史、そして四章としてアジアにおける食としての大豆、最後に五章として日本における大豆栽培の課題として考古学の観点から現在の大豆栽培に関わる課題点までを広く講演した。

2. 日本の家庭における大豆料理：今昔と未来

演者) 高崎健康福祉大学健康福祉学部 特任教授 綾部 園子 先生

座長) 神戸女子大学家政学部 教授 竹市 仁美 先生

内容) 地球気候変動と人口増加による食料危機、特にたんぱく質危機が懸念され、ベジタリアンやヴィーガンも増える中、植物由来のたんぱく質源として大豆が見直されている。大豆は畑の肉といわれるほど栄養価が高く多様な機能成分があるが、栄養的な知識がない時代においても、滋養に富む食品として利用されてきた。今回、家庭における大豆料理について昭和 35 年から 45 年ごろの家庭料理を収載した「伝え継ぐ日本の家庭料理」から写真を交えて紹介するとともに、現在の大豆料理の状況、さらには今後の大豆と食品素材（大豆たん白質素材など）の利用についても紹介した。日本各地で文化として継承されてきた様々な大豆を使用した日本料理が今後も伝統として伝え継がれていくとともに、大豆を主とした様々な素材や技術の活用により新しい料理への使用が広がり、益々大豆料理が広がることを願っている。

3. 現代社会におけるメンタルヘルスと食生活

演者) 九州大学大学院医学系研究科 教授 神野 尚三 先生
座長) 金沢大学新学術創生研究機構 教授 井上 啓 先生

内容) 現代社会は高度に情報化されており、これによって従来とは異なる心理的なストレスが生じていることが報告されている。この新たなストレスの増加に伴い、メンタルヘルスの悪化を訴える患者が増えていることも明らかになっている。一方、バランスの取れた食生活が心身の健康維持に重要であることは広く信じられていたが、食物とメンタルヘルスの関連については不明な点が多かった。近年、脳に対する食物由来分子の作用に関する基礎研究が急速に進展している。大豆に含まれているイソフラボンは抗炎症作用や抗酸化作用があり、ストレスを緩和し、抑うつ症状を改善する可能性が示唆されている。今回の講演では今まで実施してきた大豆イソフラボンやゴマに含まれるセサミンの脳機能に関する基礎研究の内容を紹介し、さらには腸内細菌との関連やポリフェノールによる抗酸化作用との関連について紹介した。最後にバランスの取れた食生活が健康の基本であり、メンタルヘルスの維持においても重要であることを講演のまとめとした。

今回の講演会は、参加者募集定員である 200 名の方より聴講申し込みを頂き、当日 167 名の方に会場にてご参加を頂きました。また、講演の内容については大阪府外の方からも開催前よりアーカイブ配信の要望を受け、閲覧期限を設けた上で YouTube を利用して財団ホームページ上より閲覧を可能といたしました。

今後もこのような公開講演会を通して、大豆・大豆たん白の良さを、広くお知らせしていきたいと考えております。

3) その他目的を達成するために必要な活動

(1) 事業時報の発行

財団の内容説明と事業紹介のため「時報」第 26 号を刊行しました。

(2) 事業活動等の公開

2022 年度の事業報告・決算報告ならびに財務内容、および 2023 年度の事業計画・予算をすべてインターネット(<https://www.fujifoundation.or.jp>)上に公開しました。ここには役員・評議員等関係者の随想も掲載されています。

(3) 海外への情報発信

昨年度より研究報告書の検索サイトを海外研究者により見やすい形にするために、日本国内向けホームページの英語サイトをリニューアルし、今年度も運用を継続しております (<https://www.fujifoundation.or.jp/english/>)。引き続き情報のアップデートを行い、より活用しやすいように検討を続けて参ります。

また、財団活動のグローバル展開では、今まで報告されてきた研究成果を国内外問わず広く知っていただくことを目的として EU 支部ホームページを立ち上げ、大豆に関

する様々な情報の更新を随時、行なっております
(<https://fujiproteinfoundation.org/>)。

3. 会議等 注) 文書中決議事項は(議)を付した。

1) 理事会

(1) 第1回理事会の開催：定款第44条による決議

日時：2023年5月10日(決議があったものとみなされた日)

事項：2022年度事業報告の承認

2022年度決算に関わる計算書類の承認

定時評議員会(第1回評議員会)招集についての承認

(2) 第2回理事会の開催

日時：2023年5月30日 午後1時～午後2時

場所：浜松町コンベンションホール・会議室1を拠点としたリモート会議

議案・報告

第1号(報) 2022年度事業報告について

第2号(報) 2022年度決算に関する計算書類について

第3号(報) 特定研究活性化準備資金の運用について

第4号(議) 特定費用準備資金取扱規程の追加について

第5号(議) 2024年度研究助成課題募集要項と選考について

第6号(議) 2023年度日程について

第7号(議) 2023年度広報事業について

第8号(議) 理事会最終決裁について

第9号(報) 代表理事および業務執行理事の執務の状況について

その他

(3) 第3回理事会の開催：定款第44条による決議

日時：2023年12月28日(決議があったものとみなされた日)

事項：2023年度臨時評議員(第2回評議員会)招集に関わる事項

(4) 第4回理事会の開催

日時：2024年1月30日 午後1時00分～午後2時

場所：不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンター6F会議室を拠点とし

たリモート会議

議案・報告

第1号(議) 2024年度事業計画

第2号(議) 2024年度予算

第3号(議) 2024年度研究助成課題の採択について

- 第4号(議) 2024年度日程について
- 第5号(報) 次期選考委員選任と今後の体制について
- 第6号(報) 代表理事および業務執行理事の執務状況について
- その他

2) 評議員会

(1) 定時評議員会(第1回評議員会)の開催

日時: 2023年5月30日 午後1時~午後2時

場所: 浜松町コンベンションホール・会議室1を拠点としたリモート会議

議案・報告

- 第1号(議) 2022年度事業報告について
- 第2号(議) 2022年度決算に関する計算書類について
- 第3号(報) 特定研究活性化準備資金の運用について
- 第4号(報) 特定費用準備資金取扱規程の追加について
- 第5号(報) 2024年度研究助成課題募集要項と選考について
- 第6号(報) 2023年度日程について
- 第7号(報) 2023年度広報事業について
- 第8号(報) 理事会最終決裁について
- 第9号(報) 代表理事及び業務執行理事の執務の状況について
- その他

(2) 臨時評議員会(第2回評議員会)の開催

日時: 2024年1月30日 午後1時00分~午後2時

場所: 不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンター6F会議室を拠点としたリモート会議

議案・報告

- 第1号(議) 2024年度事業計画
- 第2号(議) 2024年度予算
- 第3号(報) 2024年度研究助成課題の採択について
- 第4号(報) 2024年度日程について
- 第5号(報) 次期選考委員選任と今後の体制について
- 第6号(報) 代表理事および業務執行理事の執務状況について
- その他

3) 選考委員会

(1) 第1回選考委員会の開催

日時: 2023年5月29日 午前11時~12時

場所: 浜松町コンベンションホール・会議室1を拠点としたリモート会議

議題：

- 第1号 第26回研究報告会の進行について
- 第2号 2023年度広報事業（案）について
- 第3号 特定研究活性化準備資金の運用について
- 第4号 2024年度研究助成課題募集要項と選考について
- 第5号 2023年度日程について
- その他

（2）第2回選考委員会の開催

日時：2024年1月29日 午後3時～5時30分

場所：不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンター6F会議室を拠点としたリモート会議

議題：

- 第1号 2024年度研究助成課題の選考について
- その他

附属明細書の作成について

1. 事業報告に関して、その内容を補足する重要な事項はありませんので、附属明細書は作成しておりません。

以上